

## 市場価格

ドル建て      ドル/toz

Platinum	Price	Date
Open	974.89	2023/7/17
High	995.28	2023/7/18
Low	955.51	2023/7/21
Close	965.50	2023/7/21

円建て      円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4346.00	2023/7/17
High	4450.00	2023/7/19
Low	4307.55	2023/7/17
Close	4401.00	2023/7/21

ドル建て      ドル/toz

Palladium	Price	Date
Open	1271.00	2023/7/17
High	1325.00	2023/7/19
Low	1255.50	2023/7/17
Close	1290.30	2023/7/21

円建て      円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	5685.00	2023/7/17
High	5935.00	2023/7/19
Low	5616.00	2023/7/17
Close	5899.00	2023/7/21

## ニュースエクスペレス

### 中国燃料電池車、EV大国で苦戦 最大手は高用に活路

中国の燃料電池最大手、北京億華通科技（シノハイテック）が電気自動車（EV）大国となった中国で苦戦している。自動車大手の長安汽車と組んだ初の燃料電池乗用車の販売が低迷。EV化が遅れる大型トラックやバスに活路を見いだす。

シノハイテックと組んで2022年7月に発売した「長安深藍SL03（燃料電池版）」が鳴かず飛ばずの状況に陥っている。中国初の量産型燃料電池セダンとして売り出したが、69万9900元（約1360万円）という高価格と水素スタンド不足を背景に、ディーラーが販売に消極的だ。

中国汽車工業協会によると、中国の燃料電池乗用車の販売実績は5月まで6カ月連続でゼロ。深藍SL03発売後の22年8月でも120台にとどまり、月間60万台を超えたこともあるEVに大差を付けられている。

シノハイテック子会社で、燃料電池の中核部品を開発する上海神力科技の戴成龍経理はその失敗を率直に認め、EVに比べた燃料電池車の優位性である「充填時間の短さ、航続距離の長さ、低温下でも能力が低下しない特徴を生かしたい」として、大型トラックやバスなど商用車を優先する考えを示す。

燃料電池車はEVより車体重量が軽く、その分貨物の積載量を増やせる利点もある。

中国の国金証券によると、シノハイテックは22年に中国の燃料電池納入シェアで2割を占めトップだった。トヨタ自動車、北汽福田汽車と共同で22年北京冬季五輪に燃料電池バスを提供した実績がある。

シェア2位の上海重慶能源集団も、スウェーデンのイケアに燃料電池トラック、米キャピラーに49トン級トレーラーをそれぞれ納入した。

本格的な普及はこれからだ。中国汽車工業協会の調べでは、22年の商用車販売でEVは約30万台となり、商用車全体の9.2%だった。燃料電池車は3681台で同0.1%にとどまった。

国金証券の株選アナリストは「25年に大型トラックのうち7.5%が新エネルギー車（EV、プラグインハイブリッド車-PHV、燃料電池車）に置き換わり、そのうち25%が燃料電池車となる」とみる。

燃料電池トラックはコスト面でもEVに比べ優位性がある。ただ燃料電池車のトータルコストの安さは政府補助の手厚さが主因だ。

中国政府は60年のカーボンニュートラル（温暖化ガス排出実質ゼロ）達成に向けて燃料電池の普及を後押ししている。政府が22年に発表した水素エネルギー産業発展中長期計画で、25年までに燃料電池車の総台数を5万台とする目標を定めた。水素スタンドの整備も急ぎ、年100万～200万本の二酸化炭素（CO2）削減につなげる。

シノハイテックの現在の納入先は地方政府傘下の公共バスが中心で、経費は国費と密接に関係する。戴氏は「燃料電池の主原料である黒鉛は極めて安価。高価な白金もリサイクルでき、量産化すれば大幅にコストを下げられる」と強調する。

<https://www.nikkei.com/article/DGKZ00GM263870W3A520C2000000/>

### 水素燃料電池船が運航 脱炭素へ先端技術を紹介 大阪万博

令和7年に開催される大阪・関西万博を運営する日本国際博覧会協会（万博協会）は20日、万博で紹介する、脱炭素社会に向けて注目される先端技術を発表した。水素を燃料とするため二酸化炭素（CO2）を排出しない旅客船が会場と大阪市内をつなぐほか、水素を使った発電事業などを会場で体感できるといふ。

万博協会は会期中、来場者らが近未来の生活を体験できる「未来社会ショーケース事業」を実施する。これまでも「空飛ぶクルマ」「自動翻訳システム」「電気自動車（EV）バス」などの事業を採用してきた。この日は新たに、気候変動などの課題に対処できる次世代の最新技術などの採用を発表した。

CO2を排出しない次世代エネルギーとして注目されている水素を活用した事業が目立ち、中でも水素燃料電池船が国内初運航する予定。万博会期中、大阪市内を流れる安治川沿いにあるゲートから万博会場が設置される夢洲（ゆめしま）（大阪市此花区）まで約11キロを40分間航行する計画で、150人乗りになるという。

旅客運航を計画する岩谷産業の牧野明次会長は「万博会場への移動だけでなく、動くパビリオン。として、移動を特別な体験に変えたい」と話した。

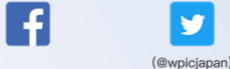
また、大阪ガスは、水素とCO2を原料に都市ガスの主成分であるメタンを合成する技術「メタネーション」の設備を設置して、来場者が見学できるようにする。また、NTTグループのパビリオンに設置された装置で生成された水素を、パナソニックグループのパビリオンに地下のパイプラインを通じて運び、パナソニック側は自社グループの燃料電池を使い、発電を行うプロジェクトも発表された。

<https://www.sankei.com/article/20230720-EPMS0505QXFL57D655F80LVY64/>

## WPIC直近の活動

プラチナを使う持続的に血糖値を測定するグルコースセンサーは、糖尿病患者がリアルタイムで自身の血糖値を把握することを可能にし、治療に大きく役立つと期待されている。以外にも、プラチナはカテーテル、ステント、血検回収デバイス、人工内耳、ペースメーカーなど、多くの医療、バイオ医療の治療に使われている。抗がん剤にもプラチナを使うものがある。2022年の医療のプラチナ需要は8.6トンだったが、今年は3%増えて8.9トンになる予測である。詳しくは**プラチナ豆知識－医療の進歩**をご覧ください。  
<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum>

WPIC 共催、第3回目となる上海プラチナウィーク（SPW）は6月の最終週に開催された。今回のプラチナ展望は同イベントの詳細を報告するとともに、発表されたプレゼンテーションの中でも、プラチナ需要に今後影響を及ぼす可能性のある3つについて述べられる。詳しくは**プラチナ展望 2023年7月号(上海プラチナウィーク2023)**をご覧ください。  
<https://platinuminvestment.com/investment-research/perspectives>



@wpiqpan

免責事項：本資料は情報提供に過ぎず、wpicの投資勧誘を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。